

危険物新聞

第498号

発行所 財団法人 大阪府危険物安全協会

編集人 松村光惟
発行人

大阪市西区新町1丁目5-7

四つ橋ビル

TEL (531) 9717・5910

定価 1部 60円

全国危険物安全大会

山田誠宏理事 消防庁長官表彰受賞

(柏・羽・藤予防協会長)

消防庁、(財)全国危険物安全協会では全国危険物安全大会を6月5日、午後2時より東京、「スクワール麴町」において開催した。

大会は、消防庁滝長官、(財)全国危険物安全協会福島理事長をはじめ、全消長会々長、都道府県消防課長会々長ら多数の来賓と関係者約300名出席のもと開催され、式典では、消防庁長官表彰、危険物安全週間推進キャンペーン標語最優秀作品及び優秀作品応募者表彰、(財)全国危険物安全協会理事長表彰が行われ、また安全大会宣言で式典が締めくくられた。

続いて東京工業大学工学部小林英男教授の記念講演「安全性を確保するために」があり滞りなく終了した。引き続き午後5時より懇親会に移り終始なごやかな雰囲気のうち午後7時散会した。



挨拶をされる消防庁滝長官

なお、当日、消防庁長官表彰の栄に輝いた危険物保安功労者並びに優良危険物事業所は次のとおりで、大阪府からは山田誠宏本会理事、櫻島埠頭株が受賞の栄に輝いた。

〔消防庁長官表彰〕

■危険物保安功労者

- ▷森井 博 (社)北海道危険物安全協会連合会理事)
- ▷三浦陸男 (岩手県危険物安全協会連合会副会長)
- ▷砂押 明 (社)茨城県危険物安全協会連合会理事)
- ▷星 四郎 (栃木県危険物保安協会連合会理事)
- ▷佐野康博 (社)埼玉県危険物安全協会連合会理事)
- ▷長島 彪 (佐原地区危険物安全協会会長)
- ▷北島彌五郎 (財)東京防災指導協会副理事長)
- ▷大谷光治 (社)神奈川県危険物安全協会連合会副会長)
- ▷原 喜介 (社)長野県危険物安全協会理事)
- ▷山下武夫 (社)静岡県危険物安全協会連合会理事)
- ▷恩田正二 (社)三重県危険物安全協会理事)
- ▷西澤重蔵 (社)滋賀県防火保安協会連合会理事)
- ▷山田誠宏 (財)大阪府危険物安全協会理事)
- ▷多田 保 (財)兵庫県危険物安全協会評議員)
- ▷花本 功 (尾道地区防火協会会長)
- ▷村重勇次 (社)山口県危険物安全協会連合会副会長)
- ▷上杉公保 (社)熊本県危険物安全協会理事)
- ▷神田 孝 (社)玖珠郡危険物安全協会会長)
- ▷田中友太郎 (社)鹿児島県危険物安全協会副会長)
- ▷山下幹雄 (北海道電力(株)伊達発電所発電課主査)

■危険物保安功労団体

- ▷蒲郡市危険物安全協会 (愛知県)
- ▷小松島市危険物安全協会 (徳島県)

■優良危険物関係事業所

- ▷コスモ石油(株)函館物流基地
- ▷(株)ハドシス
- ▷カネマン石油(株)
- ▷モーリン化学工業(株)
- ▷関東化学(株)草加工場
- ▷(株)坂本商店
- ▷橋本産業(株)
- ▷富士写真フィルム(株)足柄工場
- ▷日本石油加工(株)柏崎工場
- ▷富士食品工業(株)

▷住友ペークライト(株)静岡工場 ▷(株)INAX ▷(株)土川油
店 ▷櫻島埠頭(株) ▷ヤエガキ酒造(株) ▷松本油店 ▷出
雲石油(株) ▷(株)クラレ岡山工場 ▷篠原商事(株) ▷日本石
油(株)北九州油槽所 ▷日本化薬(株)鹿島工場 ▷大日本イン
キ化学工業(株)藤工場 ▷出光石油化学(株)千葉工場 ▷日立
化成工業(株)五井工場 ▷日産化学工業(株)富山工場 ▷東洋
インキ製造(株)天間工場 ▷ダウ・ケミカル日本(株)衣浦工場
▷日本ペイント(株)岡山工場 ▷四国電力(株)坂元発電所

〔全危協理事長表彰等〕 (大阪府関係)

なお、当日行われた(財)全国危険物安全協会理事長表彰の
受賞者で、本会の関係者は次のとおりである。

■危険物保安功労者表彰

▷三好治雄 (財)大阪府危険物安全協会副理事長
▷植田重三郎 (堺市高石市防災協会連合会理事)
▷北村吉左衛門 (大東市火災予防協会会長)

大阪府 平成7年度

危険物安全大会開催

6月16日、KKRホテル大阪で

大阪府並びに(財)大阪府危険物安全協会共催、大阪府下消
防長会協賛のもと、第5回大阪府危険物安全大会が6月16
日(金)、大阪市内のKKRホテル大阪において開催された。

この大会は、大阪府危険物安全月間のメイン行事として
行われるもので、自治省消防庁より桑原危険物規制課長を
迎え、府下の消防関係者及び危険物事業所関係者、府民な
ど350名あまりの参加者のもと、盛大に開催された。

式典では、山田大阪府知事の式辞のあと優良危険物関係
事業所16社、優良危険物取扱者4名、危険物保安功労団体
2団体、危険物保安功労者3名にそれぞれ知事感謝状が贈
呈された。

引き続き、(財)大阪府危険物安全協会理事長表彰が行われ、
優良危険物事業所15社、優良会員事業所4社、優良危険物
取扱者7名、功労役員等11名に表彰状がおくられた。その
後、第15回危険物安全管理に関する論文優良賞受賞者2名
の表彰が行われた。

次いで、滝消防庁長官並びに岡本大阪府下消防庁会々長
の祝辞があり、鴻野当協会理事長の閉会の辞で第1部式典
を終了した。

第2部では、京都大学防災研究所附属地震予知研究セン
ター安藤雅孝教授の「近畿における地震と活断層」(阪神
・淡路大震災からの教訓)と題した記念講演があり、出席
者は終始熱心に聴講し、盛会裡のうちに終了した。

〔大阪府知事感謝状〕

■優良危険物関係事業所

▷藤沢薬品工業(株)大阪工場 (大阪) ▷(株)関西テック福岡
工場 (大阪) ▷神原エネルギー(株) (岸和田) ▷山文油
化(株) (吹田) ▷三菱石油(株)大阪油槽所 (泉大津) ▷日
東電工(株) (茨木) ▷吉喜石油(株) (八尾) ▷大ト一(株)佐

野工場 (泉佐野) ▷三和倉庫(株)大東事業所 (大東) ▷
大泰化工(株) (摂津) ▷東大阪石油(株) (東大阪) ▷大和
ケミカル(株)忠岡工場 (忠岡) ▷岸田石油(株) (美原) ▷
日本石油(株)大阪油槽所 (堺高石) ▷(株)ニヤクコーポレー
ション大阪支店堺営業所 (堺高石) 松下電器産業(株)ビデ
オ事業担当室 (守口門真)

■優良危険物取扱者

▷山口護 (大阪) ▷大谷一男 (大阪) ▷福田明義 (高
槻) ▷河野章 (堺高石)

■危険物保安功労団体

▷大阪狭山市防火協会 (大阪狭山) ▷枚方市防火協会
(枚方寝屋川)

■危険物保安功労者

▷湯川竹夫 (大阪) ▷西口信明 (豊中) ▷田中貴子
(財)大阪府危険物安全協会)



式辞を述べられる大阪府知事代理

〔(財)大阪府危険物安全協会理事長表彰〕

■優良危険物事業所

▷長岡香料(株) (茨木) ▷西日本旅客鉄道(株)京都支社吹田
工場 (吹田) ▷油研工業(株) (枚方寝屋川) ▷大日本エ
リオ(株)大阪工場 (枚方寝屋川) ▷前川石油店 (交野)

▷寺西化学工業(株)守口工場 (守口門真) ▷ダイトーケミックス(株)大阪工場 (大東) ▷京阪物産(株) (八尾) ▷(株)芝田石油 (柏羽藤) ▷日本農薬(株)生物研究所 (河内長野) ▷高進運輸(株) (堺高石) ▷(株)辰巳商会堺ケミカルターミナル (堺高石) ▷菱華運輸(株)泉大津営業所 (泉大津) ▷(株)ハンナン (岸和田) ▷西武石油(株) (泉佐野)

■優良会員事業所

▷(株)銭屋アルミニウム製作所 (池田) ▷(株)ホクセツ (豊中) ▷大阪医科大学付属病院 (高槻) ▷(株)西田製鋼所 (貝塚)

■優良危険物取扱者

▷田村茂治 (大阪) ▷吉崎正昭 (大阪) ▷堀明敏 (大阪) ▷小笠原康友 (大阪) ▷保高真 (大阪) ▷服部彰夫 (東大阪) ▷藤田順一 (堺高石)

■功勞役員等

▷日戸力 (大阪) ▷石川照二 (箕面) ▷岡部茂昭 (摂津) ▷奥田義三郎 (四條畷) ▷馬場亨 (大東) ▷柳本正美 (美原) ▷佐竹哲司郎 (堺高石) ▷森田和成 (忠岡) ▷佐久間恒和 (東大阪) ▷眞實修 (財大阪府危険物安全協会)

■感謝状

▷見浪保治郎 (大東)

■危険物安全管理論文優良賞

▷川崎隆 (小林製薬(株)大阪工場) ▷神元正博 (中央理化工業(株))

防災講演会開催

6月6日、大阪市中央区民センターで

6月6日(火)、大阪市中央区民センターに於て、大阪市消防局主催、(財)大阪市消防振興協会及び大阪市危険物安全協会協賛のもと「防災講演会」が開催された。

この防災講演会は、危険物安全月間推進事業の一環として開催されたもので、講師は、帝人(株)、安全環境部長の近藤千歳氏で、「保安を中心とした安全環境管理について」と題して、約2時間に亘って熱弁をふるわれた。出席された300人をこえる参加者は終始、熱心に聴講され、危険物施設の保安を確保しようという強い姿勢が伺われ、盛会のうちに防災講演会を終了した。

第13回危険物安全大会開催

堺市高石市消防本部・防災協会連合会

堺市高石市消防本部・同防災協会連合会では、第13回危険物安全大会を堺市民会館において行った。

当日は、第1部、安全大会では、消防管理者の堺市長、消防長の挨拶に始まり、危険物安全管理で功績のあった事業所、保安監督者、危険物取扱者へ堺市高石市消防組合管理者並びに消防長より表彰状が贈られた。その後、安全宣言があり第1部が閉会、続いて第2部では「地震に対する危険物施設の教訓と安全対策」に題して、自治省消防研究所・消防機械研究室長山田實氏による防災講演が行われた。

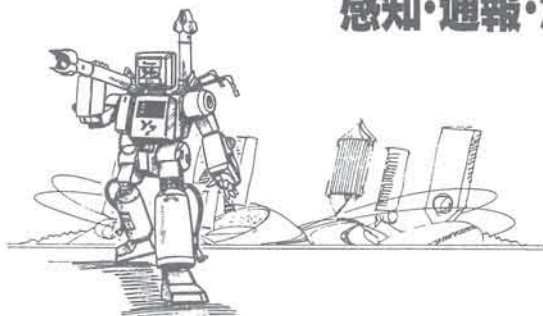
〈安全運動推進キャンペーン標語〉

確実な 攻守がきめての 危険物



防災設備はさまざまな防災機器やシステムによる安全の構築です。総合防災メーカー・ヤマトプロテックは「恐ろしい災害を回避・回避」を安全確保のテーマに、目的に沿った防災機器の研究開発を断えず行っています。

* 防災には迅速な通報が不可欠です。スローガーターミネーションシステムは



かんじる しらせる けす
感知・通報・消火

・とりこま。

ヤマトプロテック株式会社

本社 〒537 大阪市東成区深江北2-1-10 TEL.(06)976-0701代 東京本社 〒108 東京都港区白金台5-17-2 TEL.(03)3446-7151代 札幌支店 〒060 札幌市中央区南一条西5-1-1 TEL.(011)231-1111代

募集論文入選作決まる

優良賞、川崎・神元氏に

(財)大阪府危険物安全協会では「第15回危険物安全管理に関する論文」を募集していたが、このほど入賞作品が決定した。今回の募集には府下の各危険物事業所より19点の優れた作品の応募があり、慎重に審査の結果、優良賞に川崎隆氏、神元正博氏の両氏が、佳作として吉丸俊彦氏、越部実氏、宮本文雄氏の3氏がそれぞれ入選となった。

◎第1部 製造、取扱い部門

〈優良賞〉

・「当社の防災管理の取組みについて」
川崎隆 (小林製薬(株)大阪工場)

・「危険物取扱い経験から」
神元正博 (中央理化工業(株))

〈佳作〉

・「危険物管理について」
吉丸 俊彦 (大阪有機化学工業(株)柏原工場)

・「“化学工場における安全管理”に思うこと」
越部 実 (三井東圧化学(株)大阪工業所)

・「阪神・淡路大震災体験記」
宮本 文雄 (興亜石油(株)大阪製油所)

平成7年度 優良賞

「当社の防災管理の取組みについて」

小林製薬(株)大阪工場

川崎 隆

はじめに

小林製薬大阪工場は、昭和15年に操業を開始し、主に医薬品を製造していましたが、家庭用日用雑貨も手懸ける様になり、昭和52年・54年に現在の建物が完成し、生産部門と研究部門が併設されています。10年程前に富山工場、そして最近仙台工場が完成し、医薬品と日用雑貨品の大半が移設されました。現在、大阪工場では一部の日用雑貨品の生産を行なっています。その沿革の中で大阪工場では、数年前から、安全衛生委員会と、防災管理委員会の活動をリンクし、主体は、安全衛生委員会の工場内安全パトロールを実施する事で、両活動を積極的に推進しています。パトロール中に指摘された所を改善していく方法で、社内の啓蒙と安全対策・防災対策が少しずつではあるが、実施されたと考えます。安全パトロール中の指摘事項を改善する為の原則・ルールは、下記のように定めました。

- (1) 指摘事項は、写真に撮り全社員に公表する。
- (2) 改善は、対症療法でなく、根本治療を行なう事。
- (3) レッドカード貼付物件に付いては、直ちに使用停止する。改善又は、改善計画書が安全衛生委員会に承認されない限り、再使用・再起動は出来ない。
- (4) イエローカード貼付物件は、一時に対症療法で使用を許可するものの、改善計画書を安全衛生委員会で、承認を得る。
- (5) 全ての指摘項目は、対策と期限を明示する。
- (6) 部下の安全と、会社の財産を守るのは所属長の使命である。所属長の責任で、改善を行なう事。

普通消防ポンプ車

MX-1

乗降性、操作性を高めた新世代PUMPER

- MX-1専用キャブ、ハイルーフ&ワイドウィンド
- オートマチックトランスミッション
- フルパワーP.T.O.
- デジタル表示式集中コントロールパネル
- 動力式ホースレイヤー
- 吸管、各種放水器具、資機材をコンパクトに収納

MORITA
森田ポンプ株式会社

本社/〒544 大阪市生野区小路東5丁目5番20号
TEL(06)756-0110 FAX(06)754-3461
東京・大阪・仙台・名古屋・福岡・富山・松山



当初、このルールを適用するに当たって、相当議論をしました。「我社のレベルでは、高すぎるのではないか。」「原則通り進めれば生産活動が停止する。」「お金が掛りすぎる。」等々。「しかし、目標は安全パトロールで、指摘されなければ問題は起きない訳で、指摘されることを前提に、物事を考えると言うのは、後向きすぎないか?」と言う意見もありました。対策には全員の知恵を集め、期限は弾力的に運用する事で、取りあえずスタートしようと決定しました。

1. 組織について

当事業所は製造部門と研究部門が併設されています。製造部門と研究部門では、使用設備や機器の違いや、コストに対する意識に開きがある為、視点に相当のズレがあると考え、日常活動は別々に行ない、定期的に合同のミーティングを持ち、意見の交換・技術の交流を行なっています。安全衛生委員会・防火管理委員会、2つの組織にして上部に本部組織を設けました。

2. 活動

日常的には、安全パトロールを重点的に実施しています。その中で、

- ① 消火器・消火栓の前に、物が置いてある。
- ② 非常口避難通路に、物が置いてある。
- ③ 危険物の近くで、溶接等の補修工事が行なわれる。
- ④ 溶接作業時に、手元に消火器が準備されていない。

等が指摘され、意識の低さからくる現象として、はずかしい限りでした。しかし、「継続は力なり」を信じて、継続的に活動を進める以外に方法はないと、委員会で確認しました。現実には、最近では指摘件数も徐々に低化しています。又、春・秋に防火訓練を行なっています。この目的は、

- (1) 初期消火の大切さの啓蒙。
- (2) 新入社員の消火器の実際の操作の体得。
- (3) 日常非使用の避難路・非常口の使用・再確認。
- (4) 可搬式動力消火ポンプの、動作点検。

しかし、どこの事業所とも同じで、マンネリ化しつつあります。

しかし、今回の震災での教訓の中で1月24日のNHKでの、神戸大室崎教授のコメントを引用すれば、

1. 初期消火に失敗した事。

- (a) 同時多発型の出火であった事。
- (b) 建物崩壊による救助を優先させ、初期消火に取り掛かるのが遅れた事。
- (c) 水道管の損傷により、給水がなされなかった事。
- (d) 建物が路上にまで倒れてきており、移動が困難であった事。
- (e) 応援の部隊が、こなかった事。

2. 延焼を食い止められなかったこと。

- (a) 倒壊した建築物が、適度に燃え易い状態になっていた事。
- (b) 放置された自動車が、炎上して火災を伝搬してしまった事。
- (c) 耐火建築物の一部で、火災を拡大させる現象を引起した事。

この場合は、震災により同時多発型の出火であったが、個別出火の場合と同様に専門的な事は理解出来ないにしても、初期消火の重要性が証明されたと考えます。今回の震災を期に、避難・消火訓練にも意識の変化が見られる事を期待して、マンネリでも継続していかねばならないと、防火管理委員会で確認しました。

3. 対応策

(1) 研究部門の取組み。

今回の震災で、他社実験室等で何ヶ所か、火災を起こしたと聞いています。当社の実験室でも震災後は、例にたがわず、書類・商品サンプル・実験機器・器具一般試薬等が散乱し、足の踏み場もないという状態でした。勿論3階・4階にある有る為、ゆれが大きかった事が影響していると考えていますが、その中で、有機溶剤・危険物等の試薬の取扱いについて、研究室では震災前に実施していた事は

- ① 容量の大きい物は、危険物貯蔵庫に保管。
- ② 使用頻度の高い物は、耐薬品薬品保管庫(金属製、仕切付)で保管する。
- ③ 類別に指示された場所に保管。
- ④ 保管棚には、落下防止用棧を設ける。
- ⑤ 試薬瓶には、ボトル安全ネットを取付ける。

以上です。

一般試薬等の散乱する中で、危険物該当試薬が1本も落下しなかったのは、対策を講じていたからだと判断しています。この対策を実施するに当り、当初は「使いにくい」「めんどう」等、色々な意見がありました。

- ① 1人の不注意で、大事故を起こす可能性が有る事。
- ② 専門知識が有る為に、かえって扱いが粗略になる事。
- ③ 原則通り扱えば、皆無にならなくても可能性を極小に押さえる事が出来る事。

等、長い議論の末、実施しました。この議論をすると言う事が、全員の防災意識を高め啓蒙する事が出来ると体験的に学びました。

今後は、

- ① 使用が済み次第即、保管庫に返却する事。
- ② 危険物登録証を、必ず防火管理委員会に提出する事。
- ③ 量の多い溶剤は必ず、危険物貯蔵庫に保管する事。
- ④ 危険物取扱いマニュアルの遵守を、行なう事。

等、初歩的な事項も含めて、再度徹底して、活動を進めたいと考えます。

(2) 生産部門の取組み

沿革でものべた様に近年、大阪工場での生産品目は、漸減傾向にあります。当社の製品は、調合工程の中の計量部分で、少量危険物の取扱いの規制を受けます。従って、調合設備全体と部分に分けて、取り組んでいます。

- ① 調合作業場全域に、ハロンガス自動消火設備を設置しています。これは、夜間の初期消火が目的です。日常の生産活動を続けていく中で、夜間の保証をどの様に確保するか、相当議論は紛糾しましたが結論として、設置する事にしました。これを設置する事により、社員の意識が色々な事を想定して物事に対処しなければならぬと言う意識が根付き、2重の効果が有ったと考えています。
- ② 又、近年粉塵爆発について消防署よりの指導がありました。当社の販売している製品の中で、生産技術の改良が進み、性能が上がる毎に粉体の粒度が下り、微粉末化している製品が有ります。この微粉末と溶剤を混合する工程で、静電気が発生が見られます。これも議論の結果、下記の処置をしました。
 - (a) 間仕切をし、容積を小さくしてエネルギーの留積を防ぐ。
 - (b) 換気を行ない、粉塵の密度を下げる。
 - (c) 動力源は、高圧エアーを使用する。
 - (d) 制御機器は、耐圧防爆とする。
 - (e) アースを取る。
 - (f) 粉体を扱う作業場に、温度計・湿度計を取付ける。

今後の課題として、

- ① 粉体を扱う作業は、制電無塵衣・靴・手袋の着用。
- ② 輸送時の包装形態・材料を研究する。
- ③ 解包前、除電処理を行なう。

の徹底を計り、各作業者に静電気発生から、粉塵爆発に至るまでのメカニズムを、原理的に教育し、扱い上の注意を喚起していきたいと考えています。

まとめ

企業に於ける防災活動は、いくら設備上の処置を施して

も、扱うのは人です。操作する人の専門的知識と意識を持続的に高めていかなければなりません。その為に、

- (1) 訓練、テーマミーティングを定期的に継続する事。
- (2) 部下の安全を守るのは、所属長の責任である事を明確にする事。
- (3) 安全の確保と効率性を、バランスを取る事。
- (4) 優先は、物的被害より人的被害である事。
- (5) マンネリを打破する為に、何かインセンティブを取入れる事。
- (6) 全員が納得出来る様に、努力する事。

を、防災活動の原点として進めていきたいと考えています。震災後、当社でもリスク管理の見直しが着手されています。50年又は、100年に一度と言われている災害に、どれだけ費用を掛けるかと言う事が、どこの企業でも議論されていると考えます。

緊急時の運用基準の中で、災害が起きてからの対応も重要であるが、起きる前に何をしなければならぬかと言う視点で、今後とも、防災活動を進めていきたいと考えています。

＜危険物関係 参考図書＞

◇図解危険物施設基準の早わかり① (危険物規制の概要、製造所、一般取扱所)	2,500円
◇図解危険物施設基準の早わかり② (屋内・屋外貯蔵所、屋内・屋外タンク、地下タンク) 簡易タンク、移動タンク貯蔵所	3,200円
＜7月上旬発売予定＞	
◇図解危険物施設基準の早わかり③ (給油取扱所・販売取扱所・移送取扱所)	2,600円
◇図解危険物施設基準の早わかり④ (消火設備、警報設備及び避難設備)	2,400円
◇危険物関係法令・質疑応答集	800円
◇危険物・指定可燃物 (大阪市消防局監修)	1,000円
◇危険物特性ハンドブック	1,800円

大阪市危険物安全協会

☎06-531-5910

空調設備機器製造・販売

オイルタンク用液面計
遠隔式警報ユニット液面計
各種液体タンク用液面計
フロートスイッチ・微圧スイッチ
タンク部品一式

独自の技術により、正確・安全
ローコストを追求する

GIKEN

TEL 06(358)9467(代表)

株式会社技研

〒530 大阪市北区天満4丁目11番8号 工技研ビル ☎358-9467~8

平成 7 年度 保安講習

危険物取扱者保安講習は消防法第13条の23で定められた義務講習である。

危険物製造所等(危険物施設)で危険物の取り扱いに従事する危険物取扱者(保安監督者も当然、従事しているものと見なされる)は、定められた期間内にこの講習を受講しなければならない。

受講期限は、原則として資格を取得した日、または保安講習を受講した日から3年以内に受講しなければならない。受講義務者が期限内に受講しないときは、免状の返納が命じられることがある。

7月～9月の保安講習日程表

◇化学工場関係(2会場)

回数	開催日時(予定)	会場
第9	7月12日 水 午後	大阪府商工会館 大阪市
第13	7月17日 月 午前	大阪府商工会館 大阪市

◇給油取扱所関係(6会場)

回数	開催日時(予定)	会場
第5	7月7日 金 午後	*岸和田競輪場 岸和田市
10	7月13日 木 午後	大阪府商工会館 大阪市
12	7月14日 金 午後	*堺市民会館 堺市
14	7月17日 月 午後	大阪府商工会館 大阪市
15	7月18日 火 午前	大阪府商工会館 大阪市
18	7月21日 金 午後	大阪府商工会館 大阪市

◇タンクローリー関係(2会場)

回数	開催日時(予定)	会場
22	9月9日 土 午後	大阪府トラック総合会館 大阪市
24	9月14日 木 午後	大阪府トラック総合会館 大阪市

◇その他・一般(12会場)

回数	開催日時(予定)	会場
6	7月10日 月 午後	大阪府商工会館 大阪市
7	7月11日 火 午後	大阪府商工会館 大阪市
8	7月12日 水 午前	大阪府商工会館 大阪市
11	7月14日 金 午前	*堺市民会館 堺市
16	7月18日 火 午後	大阪府商工会館 大阪市
17	7月19日 水 午後	大阪府商工会館 大阪市
19	7月24日 月 午後	*堺市民会館 堺市
20	7月26日 水 午後	泉大津市民会館 泉大津市
21	7月28日 金 午後	貝塚福祉会館 貝塚市
23	9月13日 水 午後	豊中市市民会館 豊中市
27	9月22日 金 午後	和泉解放総合センター 和泉市
28	9月25日 月 午後	柏野藤消防本部 藤井寺市

(注)1. 回数欄中*印の会場は、6月15日現在すでに満席状態です。

2. 講習時間は3時間です。

(開講時間は講習会場によって若干異なります。)

3. 会場欄中*印の会場は駐車可。

(ただし、堺市民会館は有料)

◇10月期～8年2月期の予定

・大阪市内 13会場

(うち、化学工場関係 1会場
コンビナート関係 2会場
給油取扱所関係 1会場)

・茨木 3会場

(うち、給油取扱所関係 1会場)

・堺 3会場

(うち、タンクローリー関係 2会場)

・高槻、枚方 各2会場

・吹田、門真、大東、東大阪、八尾 各1会場

H&H

HATSUTA

株式会社 初田製作所

大阪本社 〒152 大田区東大田西船場2-5 TEL. (072) 56-1291
東京本社 〒100 東京都港区芝浦5-7 TEL. (03) 354-4811

最高はロスフリーベンションです。

頑固な夢が
そこに
ある。

我が社の保安対策

レスポンスブル・ケア活動

の取り組み紹介

〈大阪〉 住友化学工業(株)大阪工場

当工場は、昨年国際的な品質保証体制のISO-9002の認証を取得した。本年度から自主的な総合環境安全活動であるレスポンスブル・ケア(略称RCと言う)活動に取り組んでいる。RC活動は、4つの柱即ち(1)環境保護(2)保安防災(3)労働安全衛生(4)化学品安全から成り立っており、これらについてトータルの管理を自己決定、自己責任で継続的に、徹底して行うものである。



住友化学工業(株)大阪工場事業所建物

当社は、品質、安全、環境に関する経営基本方針を制定し、当社創業以来の「顧客重視」「無事故無災害」「社会との共存共栄」と言った経営の基本理念に基づいて、研究開発、生産、物流、販売など事業活動のあらゆる段階において次の4項目を最優先事項として取り組むこととした。

- (1) 顧客が満足し、かつ安心して使用出来る品質の製品と、サービスを提供する。
- (2) 無事故、無災害の操業を続け、従業員と地域社会の安全を確保する。
- (3) 原料、中間体、製品の安全性を確認し、従業員、物流関係者、顧客、一般消費者など関係する人々への健康障害を防止する。
- (4) 製品の開発から廃棄に至るまで製品の全生涯にわたり環境の負荷の評価と低減を行い、環境保護に努める。

この経営方針に基づき、全社全部門、全従業員が認識して取り組むこととしており、これを受けて環境・安全に関して、具体的に実施するために、RC活動方針を実施するために、RC活動方針を定め、その目標と実施項目(方法)

を明確にした。

目標として

- (1) 無事故、無災害の達成による安定操業の確保および作業環境の整備
- (2) 自主活動に基づく環境負荷の評価と低減につとめ社会との共存を図る。
- (3) 製品の全ライフサイクルを通じて「環境・安全」に関する技術の向上につとめ事業の発展に貢献する。等をかかげ、継続的に取り組むことにしている。

又、RC活動が計画通り実施されているかの監査をRC委員会の指導の下、1回1年取締役を監査団長とする監査団による内部監査として実施する。内部監査では、'94年5月に社内で制定した「保安管理ガイドライン」を監査基準として監査が行われる。保安管理ガイドラインには、

- (1) プロセスの安全に関する情報
- (2) プロセスの安全性評価
- (3) 危険、有害作業の管理
- (4) 変更の管理
- (5) 運転前の安全審査

等の内容からなっている。これ等の項目の中で

- ・プロセスの安全評価では、研究開発段階から工業化実施段階までに各段階に応じたレベルのプロセス安全検討会を実施して、プロセスの安全対策確保に努め、災害未然防止を図っている。又、
- ・プロセス安全性の評価においては、物質の安全データ、プラント材料の適材化調査等、総合的な防災技術の開発検討、研究評価を生産技術センターが実施し、適切な指導性を發揮して「無事故、無災害の操業」に大きく貢献している。

更に、生物環境科学研究所において、化学物質の人の健康や環境に影響する物性を測定し、化学物質の安全性評価を行い、安全性確保に大きく寄与している。

この様な研究所による支援体制も充実しており、総合的な環境、安全に関する活動を展開して行くためには、各部門各部署での弱点、改善点について、未解決な部分を全社的システムを活用して解決に当ることも大事である。この様な認識の下、当大阪工場では、トータル安全査察を実施している。この査察はRC監査のミニチュア版と位置づけられるもので、各部門の弱い面をさらけ出し、査察団と一緒に、環境、防災、安全等の対策を提言し合うものである。また年末の「自主環保査察」で対策改善進捗の報告、未解決部分の対応についての示唆等を含め、トータル安全査察のまとめを実施している。

以上、全社的なRC活動と大阪工場独自のトータル安全査察をドッキングさせ、効果的に機能した活動を進め、

よくとっしは 曲突徒薪(災害の未然防止)の精神に基づき、企業の社会的責任を果すべく取り組んでいきたい。